



## 失われた貴重な映像



RSKの放送ライブラリーセンターには、1987年以来の日々のニュースをまとめた1本化テープがあり、現在テープに何が写っているかを調べて検索できるようにする地味な作業が行われています。その作業中1991年4月の岡山市出石町で行われた街づくりシンポジウムの項目に、戦前の出石町を撮影した画像があることが分かりました。画像は鶴見橋西詰めの十字路口近くを幼稚園児が隊列を作って行進しているものです。

岡山市内の戦前の動画は公にはほとんど保存されておらず、戦災で消失したとも言われていますが、センターではその多くが空襲前に疎開してどこかの家の隅に眠っていると考え、行方を捜しています。

そんな中見つかった出石町の映像は、センターのスタッフにとって衝撃的でした。暗闇に光明を見る思いで当時の関係者を当たり、元の映像が当時石関町に住んでいた人の持っていた8ミリフィルムだったことまで分かりましたが、あれこれ探してようやく辿り着いたその人はすでに病気のため岡山を引き払い、家族の住む横浜で施設に入っていました。フィルムの行方も分かりません。

1991年当時取材した記者は、シンポジウムの関係者からフィルム映像が収められたVHSテープを預かり、報道部でβcamテープに起こしたものの、編集が終わった後そのテープを消してしまったようです。このため

私たちの手元に残ったのは1本化テープに記録されたわずか2カット7秒だけ。それ以外の映像は消え失せてしまいました。

戦前の岡山の動画を持ち帰ってダビングしながら、編集するための一つのアイテムとしか考えなかった当時の記者の感覚が、市民の財産ともいえる貴重な映像を失わせたことになります。

### 記録メディアの歴史

#### ③「16ミリフィルム」



1889年にエジソンが35ミリフィルムを発明して以来、劇場映画は次第に普及していききましたが、その後16ミリフィルムが考案され、1920年代に入って世界各地に現像所ができ始めると、個人映画の機運が一気に広がります。

この16ミリフィルムを爆発的に普及させたのは、実は戦争でした。35ミリフィルムカメラに比べてコストが低く、小型で重量の軽い16ミリカメラは、弾の飛び交う戦場で威力を発揮します。第二次大戦では16ミリカメラが大量に作られ、世界中で使われました。

16ミリフィルムの映像は映画に編集されて国威高揚の道具として使われましたが、そのノウハウは戦後劇場ニュースに受け継がれ、テレビ放送が始まると同時に、テレシネと呼ばれるフィルム画像をテレビ画像として取り込むための機械が開発されてニュース映像に反映されていきました。

山陽放送でも1958年のテレビ放送開始とともに16ミリモノクロフィルムが使われ、1968年から次第にカラーフィルムに切り替わっていきました。

電源がなくても使え、そこそこ解像力のいい16ミリフィルムでしたが、現像に時間をとられるのと、小型カメラでは一度に4分しか撮れないため、1970年代後半からビデオカメラに座を譲る事になります。



センターで使っているテレシネ

### パラボラが看板に

センターにはわが社で過去に使われた機材がいくつか保存されていますが、それらは基本的に現在使えない物です。そのうちのひとつ、中継用パラボラアンテナがセンターの看板として甦りました。センターにお越しの節は是非ご覧ください。

